

IPCOM VX2R1330 / VX2T1320 / VX2R2540

ご使用上の留意・注意事項

2020年 6月 07版

富士通株式会社

IPCOM VX2R1330 / VX2T1320 / VX2R2540に関して、以下の留意・注意事項がございます。製品をご使用になる前にお読みくださいますようお願いいたします。

留意・注意事項一覧

ハードウェア仕様変更で追加の項目	2
1. データカートリッジ RDX の ext3 フォーマットについて.....	2
ソフトウェア版数 v1.1.1 で追加の項目	3
1. パフォーマンスストレスの採取の制限について.....	3
2. バックアップ機能について.....	3
ソフトウェア版数 v1.1.0 で追加の項目	4
1. IPCOM VX2R2540 の Quad port LAN カード(10GBASE)の LLDP フレーム送信について	4
2. 退避の実行中メッセージウィンドウの表示について.....	4
3. IPCOM VX2R2540 の仮想マシンの作成および起動について.....	4
4. バックアップデータリストア後のインスタンス起動について	4
5. Google Chrome バージョン 58 以降における SSL 証明書の適用について.....	5
6. Port X.0(Port A)における光モジュールおよび Twinax ケーブルの挿抜について	6
7. IPCOM VX2R2540 の Quad port LAN カード(10GBASE)についてのご注意.....	7
8. IPCOM VX2R2540 の暗号化アクセラレーションカードについてのご注意.....	8
ソフトウェア版数 v1.0.1 で追加の項目	9
1. IPCOM VX2T1320 の ISM 連携機能について	9
ソフトウェア版数 v1.0.0 で追加の項目	10
1. 仮想マシン自動起動機能について	10
2. メモリの解放処理について	10
3. Audit ログの出力について.....	11
4. セキュリティーグループ機能について.....	12
5. ISM 連携機能について	12
6. 管理ホストのハードディスクをバックアップ・リストアする場合について	13
7. IPCOM VX2R2540 の仮想化基盤マネージャー二重化機能について.....	15
8. IPCOM VX2R2540 の仮想化基盤マネージャーのデータベース管理サービス確認方法について.....	16
9. IPCOM VX2T1320 の LAN ポート位置のマニュアル表記について.....	16

ハードウェア仕様変更で追加の項目

1. データカートリッジRDXのext3フォーマットについて

※本留意・注意事項については、データカートリッジ RDX をご使用のお客様に該当します。

データカートリッジ RDX によっては、ext3 フォーマットに時間がかかるものがあります。
通常数分で完了する ext3 フォーマットに数時間かかるような事象となります。

[確認方法]

ご使用の RDX カートリッジが、事象発生の対象のものかを特定するために、
RDX カートリッジの背面ラベルに記載された、CBL 情報をご確認ください。

下記の CBL 情報を持つ RDX カートリッジが、事象発生の対象のものです。

1TB 品：CBL2081-0008、CBL2244-0002

2TB 品：CBL2231-0009、CBL2245-0006

[回避方法]

フォーマットに時間がかかる事象を回避するために、ext3 よりも新しい XFS などのフォーマット形式をご使用ください。

ソフトウェア版数 v1.1.1で追加の項目

1. パフォーマンスストレスの採取の制限について

※本留意・注意事項については、下記の機種およびソフトウェア版数をご使用のお客様に該当します。

IPCOM VX2R1330 / VX2T1320 / VX2R2540 ソフトウェア版数 : v1.1.0 以降

パフォーマンスストレスの採取中および採取停止後は、NMI スイッチによるダンプの採取、キーボードによるダンプの採取、ウォッチドックタイムアウトによるダンプの採取が利用できません。

ダンプの採取機能を有効にするために、パフォーマンスストレスの採取を終えた後、速やかに管理ホストの再起動を実施してください。

2. バックアップ機能について

※本留意・注意事項については、下記の機種およびソフトウェア版数をご使用のお客様に該当します。

IPCOM VX2R1330 / VX2T1320 / VX2R2540 ソフトウェア版数 : v1.1.0 以降

本留意・注意事項は、ソフトウェア版数 v1.1.2で修正しました。

操作端末をバックアップ先として「選択したデータでバックアップ」を実行し、かつ、生成されたバックアップデータが 4 ギガバイトを超えた場合、バックアップデータが正しく保存されません。このデータでリストアすることはできません。

[確認方法]

操作端末にバックアップデータが正しく保存されたかどうか、以下の手順で確認してください。操作端末への保存完了後、以下 2 つのバックアップデータのファイルサイズを比較し、同一であった場合は正しく保存できています。

※再度バックアップ処理を実行すると、IPCOM VX2 上のファイルが削除されますので、ご注意ください。

- 1) 操作端末に保存された、バックアップデータのファイル
- 2) IPCOM VX2 の "/var/lib/nova/instances/nfv_backup_op_term/" 配下にある、1)と同じ名前のファイル

[回避方法]

[確認方法]の手順により、操作端末に保存されたデータの正常性を確認してください。バックアップデータが正常でなかった場合は、[確認方法](2)のファイルを個別にダウンロードしてください。

ソフトウェア版数 v1.1.0で追加の項目

1. IPCOM VX2R2540のQuad port LANカード(10GBASE)のLLDPフレーム送信について

※本留意・注意事項については、下記の機種およびソフトウェア版数をご使用のお客様に該当します。

IPCOM VX2R2540 ソフトウェア版数： v1.1.0 以降

IPCOM VX2R2540のQuad port LANカード(10GBASE)の各ポートからLLDP(Link Layer Discovery Protocol)フレームが30秒間隔で送信されます。送信を抑止することはできませんが、その他の通信に影響はありません。

2. 退避の実行中メッセージウィンドウの表示について

※本留意・注意事項については、下記の機種およびソフトウェア版数をご使用のお客様に該当します。

IPCOM VX2R2540 ソフトウェア版数： v1.1.0 以降

本留意・注意事項は、ソフトウェア版数 v1.1.1で修正しました。

[管理]> [システム]> [環境の退避・復元]画面において、[退避用コメント]を入力して[退避の実行]を行う場合、実行中メッセージウィンドウが表示されない場合があります。本現象が発生した場合は、ウェブブラウザの[更新]ボタン、または、[F5]キー、のいずれかを押し、画面を再表示させてください。

3. IPCOM VX2R2540の仮想マシンの作成および起動について

※本留意・注意事項については、下記の機種およびソフトウェア版数をご使用のお客様に該当します。

IPCOM VX2R2540 ソフトウェア版数： v1.1.0 以降

本留意・注意事項は、ソフトウェア版数 v1.1.1で修正しました。

Quad port LANカード(10GBASE)のポートをSR-IOVで割り当てた仮想マシンの作成または起動が、まれに失敗する場合があります。

[確認方法]

/var/log/messagesに以下の情報が出力されているか確認してください。

仮想マシンの作成および起動の操作より前に10分以上本情報が出力され続けている場合は、[復旧手順]に従い復旧操作を実施して下さい。

```
「i40e 0000:83:00:0: VF 28 still in reset. Try again.」
```

*1

*1

*1: 環境によって、異なる情報が表示されます。

[復旧手順]

「FUJITSU Network IPCOM VX2シリーズ 運用・保守ガイド」の「2-1-3 本装置を再起動する」にそって本装置の再起動を実施してください。

4. バックアップデータリストア後のインスタンス起動について

※本留意・注意事項については、下記の機種およびソフトウェア版数をご使用のお客様に該当します。

IPCOM VX2R2540 ソフトウェア版数： v1.1.0 以降

本留意・注意事項は、ソフトウェア版数 v1.1.1で修正しました。

仮想マシンの自動起動設定が有効の場合、リストア実施後に仮想マシンの自動起動が失敗します。また、GUIから、その仮想マシンの起動に失敗する場合があります。以下の手順により、仮想マシンを起動してください。

[確認方法]

“プロジェクト> コンピュート> インスタンス”の画面で、仮想マシンの自動起動が「有効」になっている“インスタンス名”を確認します。

[復旧手順]

1) adminユーザーで仮想化基盤マネージャーにログインします。

```
nfv login: admin
```

```
password: .....1
[admin@nfv ~]$
```

1. adminユーザーのパスワードを入力します。
IPCOM VX2R2540の場合は、Active側装置にログインしてください。

- 2) NFV-CLIモードに移行し、起動が失敗したインスタンスのハードリブートを実行します。

```
[admin@nfv ~]$ nfv-cli .....1
PROJECT : admin .....2
PASSWORD : .....3
[NFV-CLI] admin(admin) > openstack server reboot --hard <instance-name> .....4
[NFV-CLI]admin(admin) > exit .....5
```

1. NFV-CLIモードに移行します。
2. adminユーザーの所属プロジェクト名を入力します。初期状態ではadminです。
3. adminユーザーのパスワードを入力します。
4. openstack server reboot --hard コマンドを実行します。
・<instance-name>に、確認したインスタンス名を入力します。
・1)で対象となったインスタンスが複数ある場合、それぞれのインスタンスに対して、本コマンドを実行してください。
5. NFV-CLIモードを終了します。

5. Google Chromeバージョン58以降におけるSSL証明書の適用について

※本留意・注意事項については、下記の機種およびソフトウェア版数をご使用のお客様に該当します。

IPCOM VX2R1330 / VX2T1320 / VX2R2540 ソフトウェア版数： v1.1.0 以降

本留意・注意事項は、ソフトウェア版数 v1.1.1で修正しました。

バージョンが58以降であるGoogle Chromeに対して本装置で作成したSSL証明書を適用した場合、GUIへの接続で警告メッセージ画面が表示される場合があります。

その際は、以下の手順に従い操作を進めてください。

[ログイン画面について]

IPCOM VX2シリーズで、ログイン画面を表示しようとした場合、警告メッセージ画面が表示されることがあります。

この場合は以下の手順を実施してください。

- 1) 警告メッセージ画面の左下の「詳細設定」をクリックします。
- 2) 画面下部に追加のメッセージが表示されます。
- 3) 「***.***.***.*** (接続IPアドレス) にアクセスする (安全ではありません)」のリンクを選択します。

[ホストコンソール画面について]

IPCOM VX2R2540で、ホストコンソール画面を表示しようとした場合、警告メッセージ画面が表示されることがあります。

この場合は以下の手順を実施してください。

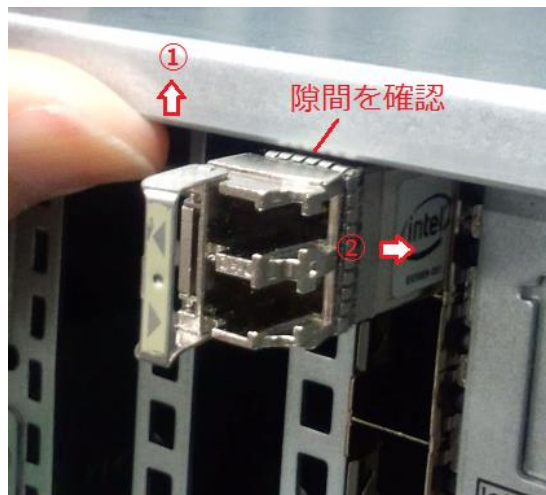
- 1) 警告メッセージ画面の左下の「詳細設定」をクリックします。
- 2) 画面下部に追加のメッセージが表示されます。
- 3) 「***.***.***.*** (選択したホストのIPアドレス) にアクセスする (安全ではありません)」をクリックします。
- 4) ホストコンソール画面が全画面で表示されます。
- 5) ブラウザの「戻るボタン」をクリックします。
- 6) 「このサイトを離れてもよろしいですか?」の確認メッセージが表示されますので、「このページを離れる」をクリックします。

6. Port X.0(Port A)における光モジュールおよびTwinaxケーブルの挿抜について

※本留意・注意事項については、IPCOM VX2R2540 の Quad port LAN カードをご使用のお客様に該当します。

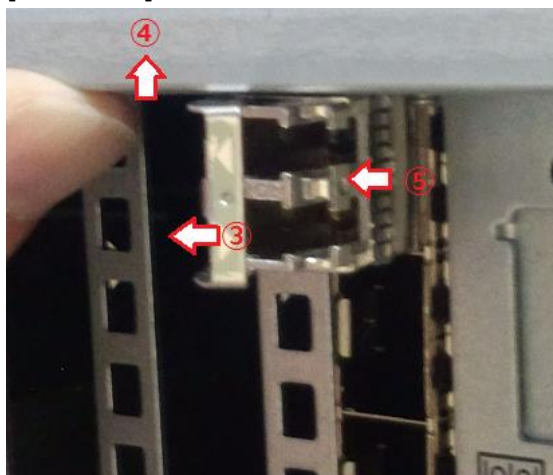
Quad port LAN カードを縦向き(Low profile)で実装した場合、Port X.0(Port A)の光モジュールあるいはTwinax ケーブルを挿抜するときは、下図の手順で挿抜を行ってください。

[挿入手順]



- 1) 上図のように、光モジュールを Port X.0(Port A)の途中まで差し込み、天板の端を上向きに強く押し上げて、光モジュールと天板の隙間を確認します。
- 2) 隙間が確認できたら、光モジュールを挿入します。

[取り外し手順]



- 3) 光モジュールのロックレバーを倒します。
- 4) 天板を上向きに強く押し上げます。
- 5) 光モジュールを引き抜きます。

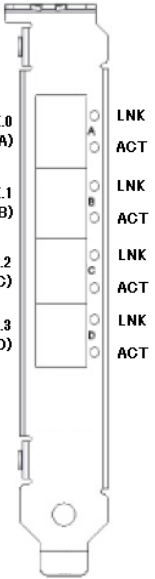
Twinax ケーブルも同様の手順で挿抜を行います。

7. IPCOM VX2R2540のQuad port LANカード(10GBASE)についてのご注意

※本留意・注意事項については、IPCOM VX2R2540 の Quad port LAN カード(10GBASE)をご使用のお客様に該当します。

[LEDの表示]

LANカードのLEDの表示は次のとおりです。

	LED	LED の状態	LAN カードの状態
	LNK	点 灯 (緑)	通信速度 10Gbps でリンク
		点 灯 (黄)	通信速度 1Gbps でリンク
	ACT	点 滅 (緑)	データ送受信中

[MACアドレス]

LANカードのMACアドレスは以下のラベルで確認できます。

ラベル添付位置



MACアドレスラベル



MACアドレス(PortA)

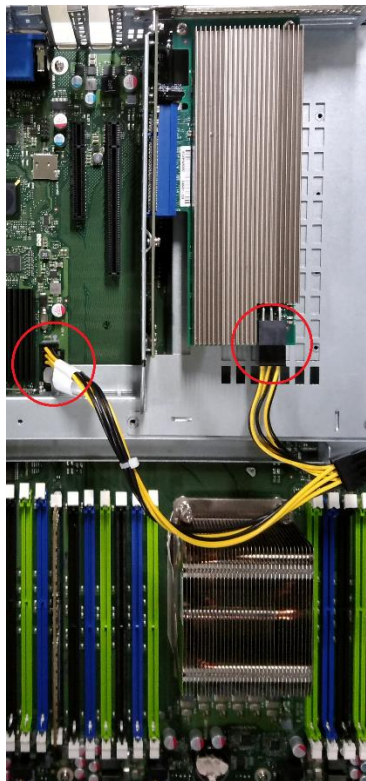
PortB,PortC,PortDのMACアドレスは、PortAのMACアドレスに+1,+2,+3した値になります。

8. IPCOM VX2R2540の暗号化アクセレーションカードについてのご注意

※本留意・注意事項については、IPCOM VX2R2540 の暗号化アクセレーションカードをご使用のお客様に該当します。

[電源ケーブルの接続]

下図を参照し、サーバ本体装置のコネクタと、暗号化アクセレーションカードを添付の電源ケーブルで接続します。



拡張スロット5搭載の場合



拡張スロット11搭載の場合

ソフトウェア版数 v1.0.1で追加の項目

1. IPCOM VX2T1320のISM連携機能について

※本留意・注意事項については、下記の機種およびソフトウェア版数をご使用のお客様に該当します。

IPCOM VX2T1320 ソフトウェア版数： v1.0.0 以降

IPCOM VX2のWEBコンソールで、“管理＞システム＞ISM設定”の設定を行って、“プロジェクト＞ネットワーク＞物理ネットワークポロジ”を選択しても、物理ネットワークポロジ情報が表示されません。

ISM設定および物理ネットワークポロジ情報の表示はご利用できません。

ソフトウェア版数 v1.0.0で追加の項目

1. 仮想マシン自動起動機能について

※本留意・注意事項については、下記の機種およびソフトウェア版数をご使用のお客様に該当します。

IPCOM VX2R1330 / VX2T1320 / VX2R2540 ソフトウェア版数 : v1.0.0

本留意・注意事項は、ソフトウェア版数 v1.0.1で修正しました。

仮想マシン自動起動設定を有効にしても、本装置起動の際(再起動を含む)、まれに仮想マシンの自動起動に失敗する場合があります。

[確認方法]

Web コンソールにログインし、仮想マシンのステータスが「エラー」になっているインスタンスを確認します。

仮想マシンのステータスは以下の画面で確認します。

- ・ 管理者権限のユーザーで確認する場合) “管理> システム> インスタンス”
- ・ オペレーター権限のユーザーで確認する場合) “プロジェクト> コンピュート> インスタンス”

[復旧手順]

仮想マシンの停止～開始を行うまで仮想マシンが起動できません。

以下の操作を行い、エラー状態の仮想マシンを復旧してください。

- 1) CLIからエラー状態の仮想マシンを停止します。「FUJITSU Network IPCOM VX2シリーズ コマンドリファレンスガイド」の「1.6.13 nova stop」の操作を行い、仮想マシンを停止します。
- 2) Web コンソールにログインし、仮想マシンのステータスが「電源停止」になっていることを確認します。
- 3) 「FUJITSU Network IPCOM VX2シリーズ 運用・保守ガイド」の「2-1-5 仮想マシンを起動する」の操作を行い、仮想マシンを起動します。

[ご注意事項]

- ・ 仮想マシン自動起動設定を有効にした場合、本装置が再起動したか外部装置から監視を行ってください。
また、再起動が発生した場合、仮想マシンの自動起動に失敗している可能性があるため、[確認方法]に記載の手順で確認してください。

本装置を外部装置から監視する方法の例を以下に記載します。

[監視方法例]

- 1) 「FUJITSU Network IPCOM VX2シリーズ 運用・保守ガイド」の「付録 A.3 Syslog転送のメッセージ形式」に沿って Syslog転送機能の設定を実施して下さい。
- 2) 装置再起動が発生した場合は以下のメッセージが転送されてきます。このメッセージを監視してください。
「Neutron service started」

2. メモリの解放処理について

※本留意・注意事項については、下記の機種およびソフトウェア版数をご使用のお客様に該当します。

IPCOM VX2R1330 / VX2T1320 / VX2R2540 ソフトウェア版数 : v1.0.0

本留意・注意事項は、ソフトウェア版数 v1.0.1で修正しました。

本装置の長時間運用でメモリ不足になった場合、本装置の正常な運用ができなくなる場合があります。メモリ解放処理が定期的に自動実行されるよう、以下の操作を行ってください。

以下のURLより、本装置の「ご使用上の留意・注意事項」をダウンロードしてください(関連ファイルが含まれています)。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/ipcom-vx2/>

[IPCOM VX2T1320/VX2R1330の場合]

ダウンロードしたファイルのうち、NFV200.tar.gzを本装置に格納してください。

NFV200.tar.gzには以下のファイルが含まれていますので、本装置の指定箇所に格納してください。

No	ファイル名	格納先	ファイルサイズ
1	systemd_restart_NFV200.sh	/usr/local/sbin/	105バイト

2	systemd_restart_NFV200	/etc/cron.d/	67バイト
---	------------------------	--------------	-------

[IPCOM VX2R2540の場合]

ダウンロードしたファイルのうち、Active用装置にはNFV300_act.tar.gzを格納してください。

NFV300_act.tar.gzには以下のファイルが含まれていますので、本装置の指定箇所に格納してください。

No	ファイル名	格納先	ファイルサイズ
1	systemd_restart_NFV300.sh	/usr/local/sbin/	2,532バイト
2	systemd_restart_NFV300_act	/etc/cron.d/	67バイト
3	pcs_monitor_time_30s.sh	/usr/local/sbin/	1,180バイト
4	pcs_monitor_time_30s	/etc/cron.d/	55バイト

Standby用装置にはNFV300_sby.tar.gzを格納してください。

NFV300_sby.tar.gzには以下のファイルが含まれていますので、本装置の指定箇所に格納してください。

No	ファイル名	格納先	ファイルサイズ
1	systemd_restart_NFV300.sh	/usr/local/sbin/	2,532バイト
2	systemd_restart_NFV300_sby	/etc/cron.d/	68バイト
3	pcs_monitor_time_30s.sh	/usr/local/sbin/	1,180バイト
4	pcs_monitor_time_30s	/etc/cron.d/	55バイト

※上記は、Active用装置、Standby用装置の両方に対して実施してください。

[格納手順]

ダウンロードしたファイルはscpコマンドなどで本装置に転送してください。

格納手順の例を以下に記載します。説明では転送したファイルはusr/lib/nfv/home/nfv-adminに格納してあるものとします。

- nfv-adminユーザーで仮想化基盤マネージャーにログインします。

```
nfv-admin@192.168.1.201's password: .....1
Last login: Sat Apr  9 00:20:48 2016 from 192.168.1.10
[nfv-admin@nfv00 ~]$
```

1. nfv-adminユーザーのパスワードを入力します。

- 指定箇所にファイルをコピーします（Active用装置でsystemd_restart_NFV300.shをコピーする場合）

```
[nfv-admin@nfv00 ~]$ sudo tar xzf NFV300_act.tar.gz .....1
[sudo] password for nfv-admin: .....2
[nfv-admin@nfv00 ~]$ sudo cp -p ./systemd_restart_NFV300.sh /usr/local/sbin/ .....3
```

1. ダウンロードしたファイルを展開します。sudoを使用してroot権限で実施してください。
2. nfv-adminユーザーのパスワードを入力します。
3. ファイルをコピーします。sudoを使用してroot権限で実施してください。
※ 1.で展開されたすべてのファイルをコピーしてください。

3. Auditログの出力について

※本留意・注意事項については、下記の機種およびソフトウェア版数をご使用のお客様に該当します。

IPCOM VX2R1330 / VX2T1320 / VX2R2540 ソフトウェア版数 : v1.0.0

本留意・注意事項は、ソフトウェア版数 v1.0.1で修正しました。

本装置で出力されるAuditログの影響で、まれに本装置がハングアップする場合があります。以下の手順で、Auditログの出力を無効にしてください。

以下のURLより、本装置の「ご使用上の留意・注意事項」をダウンロードしてください(関連ファイルが含まれています)。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/ipcom-vx2/>

ダウンロードしたファイルのうち、audit.tar.gzを本装置に格納してください。

audit.tar.gzには以下のファイルが含まれていますので本装置の指定箇所に格納してください。

No	ファイル名	格納先	ファイルサイズ
1	nfv_audit.rule	/etc/audit/rules.d/	5バイト

[設定およびファイル格納手順]

ダウンロードしたファイルはscpコマンドなどで本装置に転送してください。

設定・格納手順の例を以下に記載します。説明では転送したファイルは/usr/lib/nfv/home/nfv-adminに格納してあるものとします。

なお、IPCOM VX2R2540の場合はActive用装置、Standby用装置のそれぞれで実施してください。

- nfv-adminユーザーで対象の仮想化基盤マネージャーにログインします。

```
nfv-admin@192.168.1.201's password: .....1
Last login: Sat Apr 9 00:20:48 2016 from 192.168.1.10
[nfv-admin@nfv00 ~]$
```

1. nfv-adminユーザーのパスワードを入力します。

- auditログの出力を制限する設定を行います。

```
[nfv-admin@nfv00 ~]$ sudo tar xzf audit.tar.gz .....1
[sudo] password for nfv-admin: .....2
[nfv-admin@nfv00 ~]$ sudo cp -p ./nfv_audit.rules/etc/audit/rules.d/ .....3
[nfv-admin@nfv00 ~]$ sudo auditctl -e 0 .....4
enabled 0
flag 1
pid 1052
rate_limit 0
backlog_limit 320
lost 0
backlog 0
[nfv-admin@nfv00 ~]$
```

1. ダウンロードしたファイルを展開します。sudoを使用してroot権限で実施してください。
2. nfv-adminユーザーのパスワードを入力します。
3. auditログの出力動作を指定する設定ファイルをコピーします。sudoを使用してroot権限で実施してください。
4. 現在のauditログ出力動作を抑止します。

4. セキュリティーグループ機能について

※本留意・注意事項については、下記の機種およびソフトウェア版数をご使用のお客様に該当します。

IPCOM VX2R1330 / VX2T1320 / VX2R2540 ソフトウェア版数 : v1.0.0

本留意・注意事項は、ソフトウェア版数 v1.0.1で修正しました。

IPCOM VX2のWEBコンソールで、“プロジェクト> コンピュート> インスタンス”で、“インスタンスの作成/起動”を選択し、“アクセスとセキュリティー”メニューでセキュリティーグループを指定しても、仮想マシンへの実通信に対してセキュリティー制御は機能しません。各仮想マシン側でセキュリティーの設定を行ってください。

5. ISM連携機能について

※本留意・注意事項については、下記の機種およびソフトウェア版数をご使用のお客様に該当します。

IPCOM VX2R1330 / VX2T1320 / VX2R2540 ソフトウェア版数 : v1.0.0

本留意・注意事項は、ソフトウェア版数 v1.0.1で修正しました。

IPCOM VX2のWEBコンソールで、“管理> システム> ISM設定”の設定を行って、“プロジェクト> ネットワーク> 物理ネットワークポロジ”を選択しても、物理ネットワークポロジ情報が表示されません。

ISM設定および物理ネットワークポロジ情報の表示はご利用できません。

6. 管理ホストのハードディスクをバックアップ・リストアする場合について

※本留意・注意事項については、下記の機種およびソフトウェア版数をご使用のお客様に該当します

IPCOM VX2R1330 / VX2T1320 / VX2R2540 ソフトウェア版数 : v1.0.0

本留意・注意事項は、ソフトウェア版数 v1.0.1で修正しました。

「FUJITSU Network IPCOM VX2シリーズ 運用・保守ガイド」の「3-8管理ホストのハードディスクをバックアップ・リストアする」について、詳細な手順は以下となります。

3-8管理ホストのハードディスクをバックアップ・リストアする。

管理ホストのハードディスクをバックアップとリストアする方法について説明します。

管理ホストの設定を変更したが元に戻したい場合や、本装置の故障などでソフトウェアを再インストールした場合などに、事前にハードディスクをバックアップしておき、のちにリストアで元の設定に戻すことができます。

[ご注意] ハードディスクのバックアップを行っていなかった場合は、ソフトウェアの再インストール後に、各種設定を再度実施していただく必要があります。

バックアップやリストアを行う前に、バックアップカートリッジやバックアップドライブユニットのマニュアルで使用方法や留意事項などを必ず確認してください。誤った使い方をした場合にシステムの破壊やバックアップデータ損失の可能性あります。

バックアップは、IPCOM VX2R2540の場合はActive用装置、Standby用装置のそれぞれで実施してください。

運用中にバックアップを行う場合は、Standby装置に対して、片系ごとに実施してください。

リカバリーDVDは、IPCOM VX2R2540の場合はActive用装置、Standby用装置のそれぞれのものを利用してください。

[バックアップ手順]

1. バックアップカートリッジを挿入します。
2. リカバリーDVDから起動します。
VGA 画面にメニューが表示されます。
3. 「Rescue」を選択します。
4. 「Yes」を選択します。
レスキューモードでのログイン画面が表示されます。
5. admin の初期パスワードを入力してログインします。
[参照] admin の初期パスワードは「導入ガイド」の" デフォルトユーザー" を参照してください。
6. `fdisk -l` でバックアップカートリッジのデバイス名を確認します。
なお、以降の説明ではバックアップカートリッジのデバイス名を/dev/sdXとしています。
7. バックアップカートリッジを初期化します。
[参照] 対応しているフォーマットはバックアップカートリッジのマニュアルを参照してください。
例：ext3で初期化する場合
`mkfs.ext3 /dev/sdX`
8. バックアップカートリッジをマウントするためにディレクトリを作成します。
なお、以降の説明ではバックアップカートリッジをマウントするためのディレクトリを/mnt/backupとしています。
例：/mnt/backupにディレクトリを作成する場合
`mkdir -p /mnt/backup`
9. バックアップカートリッジをマウントします。
例：`mount /dev/sdX /mnt/backup`
10. ハードディスクの内容をバックアップカートリッジに書き込みます。
`dd/tar/gzip`コマンド等を使用してバックアップを実施します。
バックアップの対象パーティションを以下に示します。
/dev/mapper/centos-abrt
/dev/mapper/centos-crash
/dev/mapper/centos-images
/dev/mapper/centos-instance
/dev/mapper/centos-log
/dev/mapper/centos-nfvmemdump
/dev/mapper/centos-root
/dev/mapper/centos-techsupport
※/dev/mapper/centos-instance領域は非常に大きいので、tarコマンドで中身だけをバックアップすることを推奨します。
例：バックアップ方法
`dd if=/dev/mapper/centos-xxxxxx bs=1M | gzip -c > /mnt/backup/centos-xxxxxx.img.gz`
例：instances領域をtarコマンドでバックアップする方法

```

mkdir -p /mnt/instances
mount /dev/mapper/centos-instances /mnt/instances
cd /mnt/instances
tar cvzf /mnt/backup/centos-instances.tar.gz * --sparse
cd /
umount /mnt/instances

```

11. umountコマンドを実行してバックアップカートリッジをアンマウントします。
例：umount /mnt/backup
12. ejectコマンドを実行してバックアップカートリッジを取り出します。
例：eject /dev/sdX
[ご注意] バックアップカートリッジの誤用を防ぐために、バックアップカートリッジは必ず取り出してください。
13. poweroff コマンドまたはreboot コマンドを実行します。
システムが停止または再起動されます。
14. DVD-ROM 取り出しボタンを押します。
DVD-ROM の取り出しは、本装置の電源投入直後に行ってください。
15. リカバリーDVD-ROM を取り出し、トレイを戻します。

[リストア手順]

1. バックアップカートリッジが「挿入されていないこと」を確認します。
※必ず確認してください。
2. 本装置のソフトウェアを再インストールします。
[参照] 4-3-1 本装置への再インストール手順を参照してください。
3. バックアップカートリッジを挿入します。
4. リカバリーDVDから起動します。
VGA 画面にメニューが表示されます。
5. 「Rescue」を選択します。
6. 「Yes」を選択します。
レスキューモードでのログイン画面が表示されます。
7. admin の初期パスワードを入力してログインします。
[参照] admin の初期パスワードは「導入ガイド」の" デフォルトユーザー" を参照してください。
8. システムからファイルシステムの設定を取り出します。
 - 8-1. 任意のディレクトリを作成します。
例：mkdir -p /mnt/root
 - 8-2. /dev/mapper/centos-rootをマウントします。
例：mount /dev/mapper/centos-root /mnt/root
 - 8-3. ファイルシステムの設定を取り出します。
例：cp /mnt/root/etc/fstab /fstab.tmp
 - 8-4. /dev/mapper/centos-rootをアンマウントします。
例：umount /mnt/root
9. sfdisk -l でバックアップカートリッジのデバイス名を確認します。
なお、以降の説明ではバックアップカートリッジのデバイス名を/dev/sdXとしています。
10. バックアップカートリッジをマウントするためにディレクトリを作成します。
なお、以降の説明ではバックアップカートリッジをマウントするためのディレクトリを/mnt/backupとしています。
例：/mnt/backupにディレクトリを作成する場合
mkdir -p /mnt/backup
11. バックアップカートリッジをマウントします。
例：mount /dev/sdX /mnt/backup
12. バックアップカートリッジからハードディスクに内容をリストアします。
dd/tar/gzipコマンド等を使用してリストアを実施します。
リストアの対象パーティションを以下に示します。
/dev/mapper/centos-abrt
/dev/mapper/centos-crash
/dev/mapper/centos-images
/dev/mapper/centos-instance
/dev/mapper/centos-log

```

/dev/mapper/centos-nfvmemdump
/dev/mapper/centos-root
/dev/mapper/centos-techsupport

```

※/dev/mapper/centos-instance領域は非常に大きいので、tarコマンドで中身だけをリストアすることを推奨します。

例：リストア方法

```
gzip -dc < /mnt/backup/centos-xxxxxx.img.gz | dd of=/dev/mapper/centos-xxxxxx bs=1M
```

例：instances領域をtarコマンドでリストアする方法

```

mkdir /mnt/instances
mount /dev/mapper/centos-instances/mnt/instances
cd /mnt/instances
ls -l ./ (※)
rm -rf .* (※)
tar xvzf /mnt/backup/centos-instances.tar.gz
cd /
umount /mnt/instances

```

※既にファイルが存在している場合には全て削除してください。

13. ファイルシステムの設定をシステムに戻します。

13-1. /dev/mapper/centos-rootをマウントします。

例：mount /dev/mapper/centos-root /mnt/root

13-2. ファイルシステムの設定を戻します

例：cp /fstab.tmp /mnt/root/etc/fstab

13-3. /dev/mapper/centos-rootをアンマウントします。

例：umount /mnt/root

14. umountコマンドを実行してバックアップカートリッジをアンマウントします。

例：umount /mnt/backup

15. ejectコマンドを実行してバックアップカートリッジを取り出します。

例：eject /dev/sdX

[ご注意] バックアップカートリッジの誤用を防ぐために、バックアップカートリッジは必ず取り出してください。

16. poweroff コマンドまたはreboot コマンドを実行します。

システムが停止または再起動されます。

17. DVD-ROM 取り出しボタンを押します。

DVD-ROM の取り出しは、本装置の電源投入直後に行ってください。

18. リカバリーDVD-ROM を取り出し、トレイを戻します。

[参考]

バックアップ・リストアの時間の目安は以下のとおりです。環境や使用状況によって時間は変動します。

内蔵データカートリッジドライブユニット(PY-RD112、PYBRD112)の場合

instance以外の領域全体：2～3時間程度

instance領域：1GBあたり20～25秒程度

PRIMERGY SX05 S1 バックアップキャビネット(USB)(PY-B051U)の場合

instance以外の領域全体：3～6時間程度

instance領域：1GBあたり30～40秒程度

7. IPCOM VX2R2540の仮想化基盤マネージャー二重化機能について

※本留意・注意事項については、下記の機種およびソフトウェア版数をご使用のお客様に該当します。

IPCOM VX2R2540 ソフトウェア版数：v1.0.0

本留意・注意事項は、ソフトウェア版数 v1.0.1で修正しました。

IPCOM VX2R2540において、以下の条件を満たす場合、Standby装置上の仮想マシンが起動しない、Standby装置に仮想マシンを作成できないなど、Standby装置の組み込みに失敗する場合があります。

[条件]

- 1) Active装置のみで長時間動作している
- 2) 1)により、Active装置のデータベースとStandby装置のデータベースの差分が膨大になっている
- 3) 1)、2)の状態、Standby装置を二重化系に組み込んだ場合

本現象が発生している場合、「管理>システム>システム情報」のネットワークキングサービスでStandby装置のサービス状態が「停止中」になっており、復旧するまでStandby装置に仮想マシンを作成することができません。

サービス状態が1時間以上「停止中」になっている場合は、「FUJITSU Network IPCOM VX2シリーズ 運用・保守ガイド」の「4-10 管理ネットワークLANポートのインターフェースが故障した場合には」を参考に復旧操作を行ってください。なお、「インターフェースを交換した装置」を適宜「組み込む装置」として読み替えて作業してください。

8. IPCOM VX2R2540の仮想化基盤マネージャーのデータベース管理サービス確認方法について

※本留意・注意事項については、下記の機種およびマニュアルCD版数にてご使用のお客様に該当します。

IPCOM VX2R2540 マニュアルCD版数 : v1.0.0

本留意・注意事項は、ソフトウェア版数 v1.0.1で修正しました。

「FUJITSU Network IPCOM VX2シリーズ 運用・保守ガイド」の「4-9 仮想化基盤マネージャーのデータベース同期ができない場合には」の「4.データベースの復旧を行います。」で、5項の説明に誤りがあります。正しくは以下のとおりです。

誤： 5. データベース管理サービスの状態が"unknown"であることを確認します。

正： 5. データベース管理サービスの状態が"inactive"であることを確認します。

9. IPCOM VX2T1320のLANポート位置のマニュアル表記について

※本留意・注意事項については、下記の機種およびマニュアルCD版数をご使用のお客様に該当します。

IPCOM VX2R1330 マニュアルCD版数 : v1.0.0

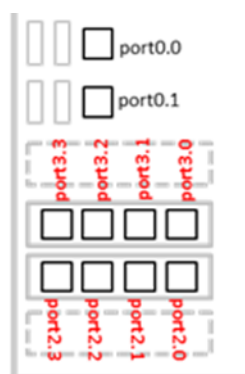
本留意・注意事項は、ソフトウェア版数 v1.0.1で修正しました。

「FUJITSU Network IPCOM VX2 シリーズ 導入ガイド」の「4-1-2 LAN ポートの位置」に記載されているIPCOM VX2T1320のLANポート位置に誤りがあります。正しくは以下のとおりです。

誤：



正：



以上